

# Stage Up

生涯学習情報誌  
ステージ・アップ  
2008年4月1日発行  
隔月発行・通巻No.161  
小誌はホームページからも見られます

もくじ

- 2 情報ポケット シニア活動シンポジウム
- 3 施設めぐり
- 4 特集 人々をつなぐ 若者の映画づくり
- 6 まち・ひと・多面体
- 7 シニアのパレット



あたま ゆうき  
与 勇輝 「水辺」 1998年

誌上ギャラリー

春先水ぬるむ頃、水辺遊びのひとつとき。  
この人形は、観る方向によってポーズや表情  
が違って見えるので、写真に撮る時に大変苦労  
しました。  
与 勇輝さんは1937年川崎市中原区生れ。当時の  
自然に恵まれた中原で幼少期を過ごす。今年、川崎市  
民ミュージアムで開催された展示会は大好評。同級生も  
たくさん訪れました。



(財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085

<http://www.kpal.or.jp/>

ステージ・アップ TEL 044 (233) 6250

E-メール: [stage-up@kpal.or.jp](mailto:stage-up@kpal.or.jp)

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するため諸事業を推進しています。

## シニア活動シンポジウム「シニアの力を地域へ」

川崎市生涯学習財団では、平成17年度から「シニア活動推進事業」として、アカデミーの学習者・修了者の活動調査や活動支援について検討し、新たな事業を実施してまいりました。去る2月2日には「シニアの力を地域へ」をテーマにシニア活動シンポジウムを開催し、53



シニアフラダンス「中原ブアナニ」

名の方が参加しました。

当日のオープニングは生涯学習プラザで練習されている平均年齢60歳近くのシニアフラダンス。「中原ブアナニ」の若々しく華やかな発表に、盛大な拍手が送られました。

引き続き、生涯学習財団の新しいロゴマークの発表・受賞者表彰が行われました。これからの財団事業のシンボルとして活用してまいります。(8面に関連記事)

シンポジウムでは、地域での福祉活動や退職後のシニアの活動のあり方、そして、市民自らが学び、活動する意義などの報告がされ、会場からの質疑や意見交換が活発に行われました。以下シンポジウムの概略をご紹介します。

## =シンポジウム報告=

## ★鈴木 恵子 すずの会代表

急速に進む高齢化地域で、ご近所のつながりを復活したいと、PTAのときの仲間と介護経験を生かして高齢者、介護者を支える活動からスタート。気軽に参加できるご近所単位(21箇所)で声を掛け合い、子育て中のお母さんから一人暮らしのお年寄りまでつながりの輪が広がっています。

地域のさまざまな課題を地域独自で、地域が相互に協力し、また、全体で取り組むなど専門機関や福祉ネットワークなどを利用して解決に努めています。

## ★土方 武 NPO法人かわさき市民アカデミー監事

かわさき市民アカデミーは平成5年にスタートし、川崎学などで全国的にも特徴的な市民大学として注目されてきました。私も川崎学などで学び、都市やまちづくりの活動をしています。

「NPO法人かわさき市民アカデミー」は平成19年4月にスタートしました。市民の学習は市民の手でと、財団が運営していたアカデミー事業を市民が中心となって運営しています。

## ★丸山 勝司 シニアライフアドバイザー

予定より早く退職したため、退職後の心の準備が十分

にできませんでした。ハローワーク通いで落ち込んだりしながら、心の整理のために遺言状「逆向きライフプラン」を作成、自分自身を見つめるようになりました。

そして、自分に合いそうな講座や講習を受け、たどり着いたのが川崎市が主催した「シニア地域活動モデル創造ワークショップ」でした。その参加者のうち、IT関係のメンバーを中心に「NPO法人かわさき創造プロジェクト」がスタートしました。

市の「シニア応援サイト」シニアリポーターなどの活動を通じ、知らなかった場所を知り、多くの人と会い、市政に関心を持ち、ようやく川崎市民になったような気がします。

今後は、自分の住んでいる地域の福祉などの活動にどのように取り組むかが課題です。



## ★コーディネーター

岩本 陽児 和光大学現代人間学部准教授

災害など何かあった時に助け合える、駆けつけられるのはご近所さん。まず、地域の足元を固めるのがシニアの役目です。学習を重ねたのも大きな力、何も知識がないところでは柱はぐらついて立たないかもしれません。培ってきたものを活かして地域の中で蓄えた成果をきちんと結びつける事が大切ではないでしょうか。

学習の成果と地域での活動を結びつける仕組みづくりについて、今後、生涯学習財団及びかわさき市民アカデミーの活動に注目してください。

## 会場やアンケートから

報告後、会場から質疑やご意見が寄せられました。

- ・学習の成果を身近な場所でどのように生かすか。
- ・地域で活動する場合、新旧住民の関係をどのようにつくっていくか。

くわしくは、ホームページで「シニア活動」をごらん下さい。

## 公開講演「宇宙開発の蔭で」東 昭(東京大学名誉教授)

かわさき市民アカデミーの開講式で、記念講演を行います。どなたも無料で参加できます。ご参加ください。

◆日 時：4月11日(金) 午前11時～12時30分

◆会 場：川崎市生涯学習プラザ 4階

◆問い合わせ：事業推進室 ☎044-733-6626

財団が管理運営する施設を紹介

施設めぐり

新年度の抱負と事業紹介

指定管理者制度がスタートし、3年目を迎えます。年度始めにあたり、各施設の館長、所長が今年度の主な事業等を紹介いたします。

○宮前スポーツセンター ～利用者の声を大切に～

平成18年に開館して3年目になります。2月に行われた開館記念祭も、皆様のご協力が無事終えることができました。地域に密着したスポーツセンターとしての役割を考慮し運営してきましたが、おかげ様で昨年度は約14万人の来館者を迎える事ができ、嬉しく思っております。

今年度は、日常生活で歪んだ骨盤の矯正体操をすることで体のバランスを保持し健康な体づくりの出来る「ペルビックエクササイズ」をスポーツデーに、また心と身体の調和の図れる「ヨガ」をスポーツ教室に追加しました。スポーツデー(9種目)、スポーツ教室(7種目)は年間を通して実施します。

開館記念祭での川崎踊り



☆問い合わせ ☎ 044-976-6350

○青少年の家 ～事業内容の充実を～

各種行事に参加した子どもたちや保護者のアンケート等で、これからも続けてほしいという希望が多い「ほのぼのスクール」「エコチャレンジクラブ」は、内容をより充実させていきます。また、昨年度行った「特別支援教育事業」も継続します。

さらに、青少年の家を地域の方にもっと知っていただくため、桜の時期にはライトアップをし、7～8月の夏期施設利用の時期には、お琴の演奏会を催し、利用者の皆様の一日の疲れを癒し、リフレッシュをしていただけるようにしていきたいと考えています。今まで、雨天時には園庭での野外炊事は出来ませんでした。創作活動室での調理も可能になりました。これからも利用団体の計画がスムーズに、快適に行われるよう職員一同で対応していきたいと思っております。

☆問い合わせ ☎ 044-888-3588

○麻生スポーツセンター ～トレーニング室の充実～

今年度は、地域で気軽にスポーツを楽しめるスポーツセンターとして、市民の健康増進・体力維持向上により一層努めます。利用者が意欲的に取り組めるようにトレーニング室の機器の充実を図っていきます。また、心身のリフレッシュができるように、個人利用の「スポーツデー」

○子ども夢パーク ～この夏、5周年を迎えます～

夢パークは「川崎市子どもの権利に関する条例」を具現化するために、平成15年7月にオープンした「つくり続ける施設」です。昨年度は、6.5万人の方々が訪れました。また、横浜のアーティスト、ロコ・サトシさんと子どもたちとの共同作業で、全天候広場「たいよう」の壁をポップな絵で飾りました。

今年度は、開所5周年の記念すべき年です。「夢パまつり～祝！！5周年～」が、どんなイベントとなるかご期待ください。

6月には、「夢」交響楽(ドリームシンフォニー)、11月には「こどもゆめ横丁」、1月には「新春スペシャル～もちつき&どんど焼き&昔遊び」を開催します。もちろん、夢パークのスタジオ利用者による音楽イベント「KUJI ROCK」も企画をあたためております。

子ども夢パークの風景



今年度は、開所5周年の記念すべき年です。「夢パまつり～祝！！5周年～」が、どんなイベントとなるかご期待ください。

☆問い合わせ ☎ 044-811-2001

○大山街道ふるさと館 ～魅力ある企画展を～

毎年7月に開催される高津区民祭は、ふるさと館が本部となり、様々なイベントで大変な賑わいを見せます。当館も開館して以来15年が経過し、それを記念して寄贈された所蔵品を一同に展示する企画展を予定しております。

周辺の小学校の児童に、郷土の歴史・民俗、街の様子など郷土高津を理解してもらうために「ふるさと出前教室」を実施します。

また、11月には恒例の大山街道をめぐる歴史、文化、芸術等をテーマとした文化講演会を開催します。今回は、

企画展での講師の解説



街道歴史研究家 池上真由美氏および考古学研究者 村田文夫氏を予定しております。大勢の皆様にご足を運んでいただけるような館にしたいと考えております。

☆問い合わせ ☎ 044-813-4705

は、利用可能日と団体利用とのバランスを考えながら実施します。東進電気が中心になって指導していただいている卓球教室は卓球大会を、バウンドテニス教室は川崎市バウンドテニス協会と協力して大会を実施する予定です。これからもスポーツ事業の普及に努めてまいります。

☆問い合わせ ☎ 044-951-1234

次号からは、折々に各施設の事業の詳細を掲載致します。ご期待下さい。

# 人々をつなぐ。若者の映画づくり

背景に多くの川崎市民の応援があった

50年前の高校生と現役の高校生が映画づくりで経験したことを語り合う

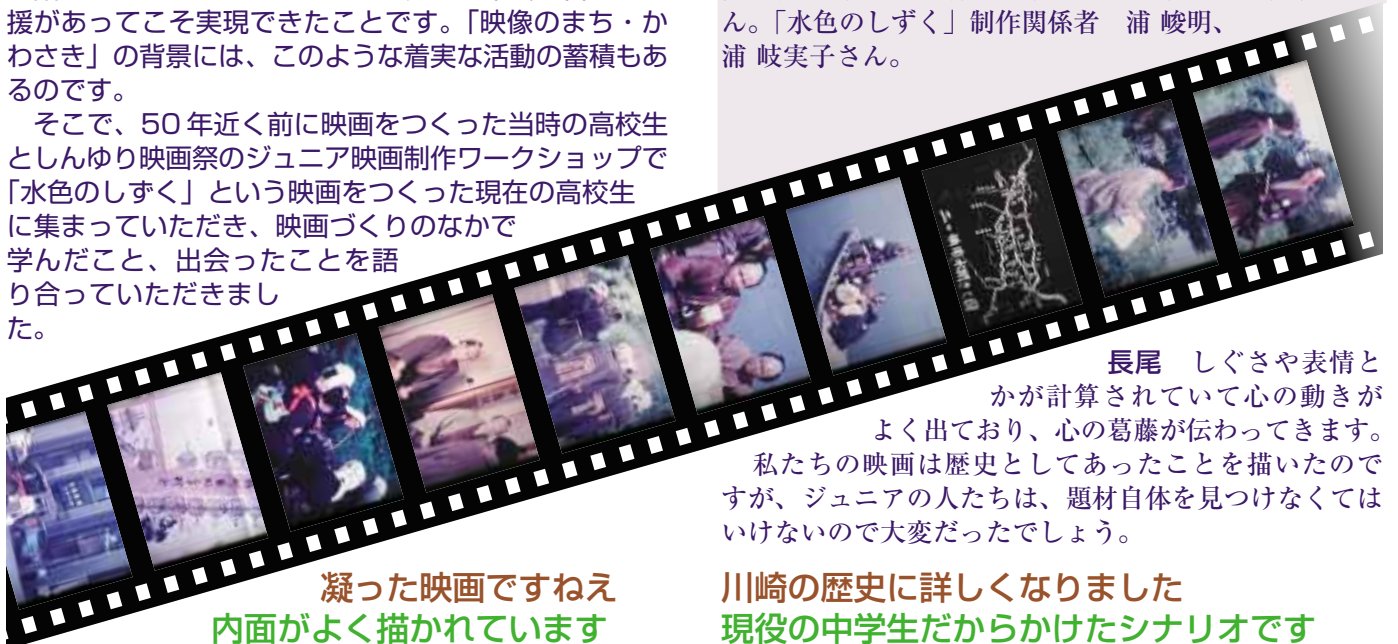
50年近く前、川崎の歴史を映画にした高校生がいました。機材だけでなく何もかも足りないなかで、川崎の歴史をテーマに、1本90分の映画を7本もつくったのです。しんゆり映画祭では中学生が毎年映画をつくって話題になっています。いずれも多くの市民の善意と支援があってこそ実現できたことです。「映像のまち・かわさき」の背景には、このような着実な活動の蓄積もあるのです。

そこで、50年近く前に映画をつくった当時の高校生としんゆり映画祭のジュニア映画制作ワークショップで「水色のしずく」という映画をつくった現在の高校生に集まっていただき、映画づくりのなかで学んだこと、出会ったことを語り合っていました。

「川崎歴史物語」については [dwgpc186@ybb.ne.jp](mailto:dwgpc186@ybb.ne.jp) まで。「水色のしずく」については 044-953-7652 しんゆり映画祭事務所まで。

語り合っていたあなた方

「川崎歴史物語」制作関係者 青葉久子、長尾和子さん。「水色のしずく」制作関係者 浦 峻明、浦 岐実子さん。



## 凝った映画ですねえ 内面がよく描かれています

**峻明** 凝った映画ですねえ。カツラをつけて衣装も本格的です。とても僕らと同じ年代の人がつくったとは思えません。演技も上手で驚きました。畑や山、茅葺の家、50年前には川崎にあんな景色があったんですね。



長尾 和子さん

**青葉** DVDにしてもらって久しぶりに見ました。すごいことをやってたんだと自分でも感心しています。演劇部に入ったら映画をつくることになっていて、先輩たちがやってきたことを受け継ぐのが当たり前だと思っていました。何しろ7部もつくりましたから先輩も多かったんです。

**岐実子** こんなにレベルの高い映画だとは思っていませんでした。機材だって恵まれてなかったと思うのですが、よくあそこまでできたものですね。画面が切り替わるときに画面がゆらゆらと揺れるところがありました。あれはどうやったんですか

**長尾** 夢のシーンとの切り替えのときなど、ガラスのコップをレンズの前で回したりして工夫してたんです。衣装は京都衣装で、小道具は高津小道具店でお世話になりました。野良着は農家の方が協力してくださり、昔の物を貸してもらいました。おかげで時代劇が撮れたんです。

**青葉** 「水色のしずく」はとてもきれいにできていますね。これだけきれいな映像で、自分たちの言いたいことがちゃんと表現できている。それがこの先伸ばしていけるというのはちょっと羨ましいですね。

**長尾** しぐさや表情とかが計算されていて心の動きがよく出ており、心の葛藤が伝わってきます。私たちの映画は歴史としてあったことを描いたのですが、ジュニアの人たちは、題材自体を見つけなくてはいけないので大変だったでしょう。

## 川崎の歴史に詳しくなりました 現役の中学生だからかけたシナリオです

**司会** 高津高校の場合は歴史を物語化するのですから、実際にあったことを物語にしないではいけませんよね。資料集めや、取材が大変だったんじゃないでしょうか。

**長尾** 川崎の出来事であっても、各地でおきている事柄と関係しています。そのなかで川崎のことを調べなくてはいけないので苦労しました。手分けして、あっちで聞いたりこっちで訊ねたりしながらまとめていきました。  
**青葉** 足でかせぐというのはああいふことなんじゃないかね。今のように携帯電話もないでしょ。いきなり直接訪ねていくしかないんです。それでも親切に取材に応じてくださったのが嬉しくて・・・。

**長尾** 私たちが取材してきたことを持ち寄って先生に渡す。すると先生がそれをシナリオ化してくれる。私たちは楽しんでましたが、先生は苦労したんでしょうね。



浦 岐実子さん

**司会** 「水色のしずく」の場合は、中学生のなかでおきていることをふり返って、それを見つめなおしてシナリオ化したんでしょう。作品を見て、これは指導している映画学校の講師の先生だって書くのは難しいんじゃないでしょうか。

**峻明** 現役の中学生だから書けるんだって、ちょくちょくいわれました。それぞれに浮かんだ場面をカードに書いてそれを並べて物語に組み立てていくんです。並べ方によって物語が変わったり、分かりやすくなったりする

のがよく分かりました。

**岐実子** この年は30人近く集まりました。それで中原と新百合の2つの班に分かれてそれぞれに映画をつくることになり、私たちは中原の班に加わりました。新百合班の「チェンジ」のほうが中学生らしい映画だといえるのかもしれませんが。

**峻明** あっちのほうが仲がよくてハッチャケていました。

**ロケをしてたらお金を包んでくれた人もいたんですよ  
友だちからでは学べないことを教わりました**

**岐実子** 最初は、講師の先生もただのおじさんに見えました。アドバイスを受けて、作品を見せてもらったりしているうちに「すごい人だ」と思うようになりました。

講師の先生に「これ買いたいんですが」と相談すると「君が監督として必要だと思うのならためらわずに買いなさい」といわれたのが今でも忘れられません。こういうことは、友だちからは学べないことですよね。絶対。



青葉 久子さん

**青葉** 私たちも映画をつくっていなかったら、まず会えなかったという人がいっぱいいます。

**長尾** そうそう。岡本太郎さんなんか、私たちがお願いすると、気軽に出演してカメラの前でいっぱいお話ししてくださいました。高校生だからできたんでしょうね。

**青葉** 取材中、お話を聞いていて感激して涙が出たこともあります。そうするとそれを見た相手の方が逆に感動していろいろやったださるんです。

**長尾** ロケをしていると、お金を包んでくださった方もいます。後で開けてびっくり。一万円も入っていたんです。50年近く前の一万円ですよ。きっと高校生だからお金がないと思われたんでしょうね。

**青葉** 働いていた卒業生のなかには、給料を貯めて援助してくれた人もいました。なかなかできることではありません。

**長尾** 地元に伝わる歌をたずねると、喜んで歌ってくれるんです。お話をうかがっていたら、おばあさんが軒先から干し柿を取ってきて「食べなさい」って。暮らしの中から応援されたみたいで嬉しかったですね。

**本物をつくろうとしたから苦労も本物になりました。  
それが映画という形になり、仲間ができたんです**

**青葉** 力仕事もしましたね。

**長尾** 重い荷物を背負ったり、ずぶ濡れになったりして「これだけ苦労すればこの先何があっても平気ね」なんていってました。学校が南武線のそばにあるもんだから、音を入れるときは学校に泊り込んで、終電が通り過ぎてから音入れをしていました。



浦 峻明さん

**青葉** 合宿したりして長く一緒にいると、ぶつかることもあります。それで逆に仲よくなるんです。苦労は映画という形に残り、形にならないことは心に残りました。今でも何年かぶりに電話しても、すぐに話が通じるんですよ。

**長尾** だから今でも話すとすぐに18歳に戻れるんです。

**青葉** 毎日が楽しくって、学校に行ってるというよりクラブに通ってるような気持ちでした。

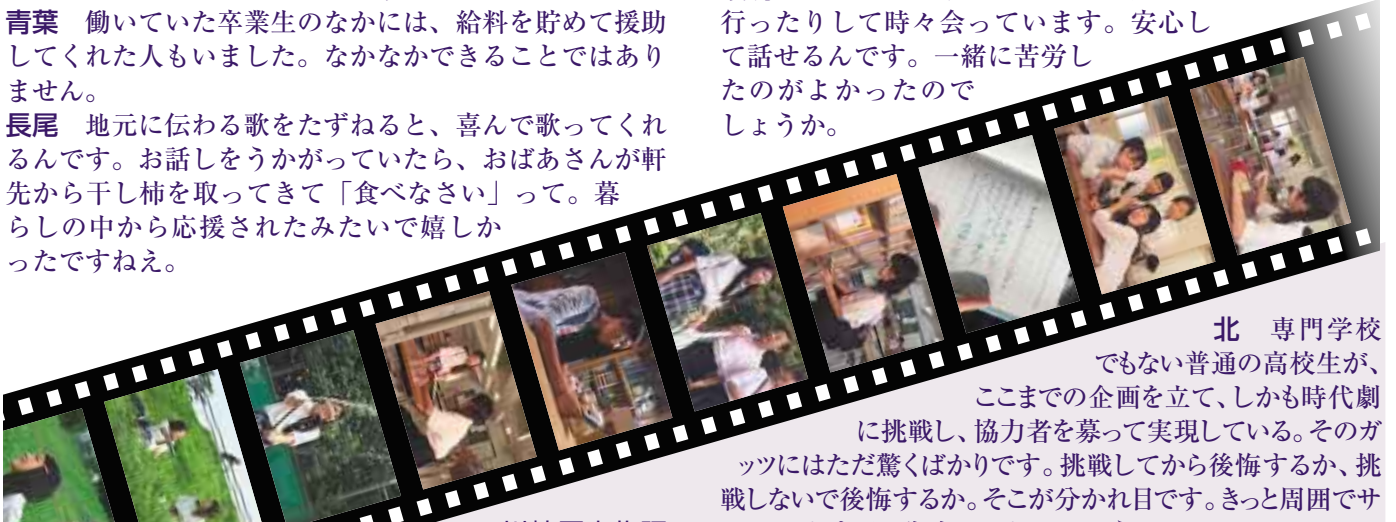
**長尾** みなさんは学校も違うし、個性的でバラバラじゃないかと思ってたのに意外です。初対面の人が集まってどんな映画をつくるのかどうやって決めるんですか。

**岐実子** 私たちの中原班はみんなおとなしくて最初の頃なんかお弁当を食べるのもみんなバラバラでした。

**峻明** どんな映画をつくりたいのかを文章に書いて持ち寄って話し合いをしました。でも、みんな黙っていて何も言わない。沈黙のなかでアイデアを練っていました。

**岐実子** 夏休みになり、一緒にいる時間が長くなると仲よくなりました。撮影に入ると1週間ぐらいで撮り終えます。サポーターやジュニアの先輩たちも手伝ってくれて並行して編集も進めました。クランクアップの日が決まっているからダラダラできないんです。

**峻明** それからは仲よくなって、今じゃ映画を見に行ったりして時々会っています。安心して話せるんです。一緒に苦労したのがよかったのでしょうか。



**川崎歴史物語**

の第5部「川崎に実る穂」はダブル8のトーキー付、誰もが再生不可能と言った特殊なフィルム。

それをビデオ化したのがシネビスの北耕司さんです。ビデオ版を最初に見たことになる北さんに作品について訊ねてみました。

(ビデオ化については 042-780-6288 シネビスまで)

**北 専門学校**  
でもない普通の高校生が、ここまでの企画を立て、しかも時代劇

に挑戦し、協力者を募って実現している。そのガッツにはただ驚くばかりです。挑戦してから後悔するか、挑戦しないで後悔するか。そこが分かれ目です。きっと周囲でサ

ポートしたすごい先生がいたんでしょう。なかなかの熱演で役になりきって演じているのにも感心しました。私もこの人たちと同世代かと思うと、羨ましく思いながら楽しく仕事ことができました。50年近く前のフィルムに写っている景色にも興味

がわきます。ともかくすごい高校生たちです。それがこの映画から伝わってきます。



シネビス 北 耕司さん

## まち・ひと・多面体

### お話の世界に浸る子どもたち

#### 読み聞かせから生まれた「おと絵がたり」が評判

影絵に語りと効果音や音楽をつけた「おと絵がたり」が去る12月8日、中原市民館で上演されました。演目は「たぬきの火の用心」「花鬼」。影絵と芝居を組み合わせた「ならなしとり」も上演されました。和太鼓や「住小子どもばやし」の演奏も加わって、楽しい会になりました。会場入り口でできた列には、孫を連れたお年寄りの姿もちらほら。

「おと絵がたり」は住吉小学校の10分間休みの読み聞かせから始まりました。後ろからだ絵がよく見えないという子どもの声に応じて、大きなスクリーンにオリジナルの影絵を



投影して読み聞かせる形に発展。そこに効果音や音楽がつくようになって現在の姿にたどり着きました。それは子どもとの共同作品だということができるのかもしれませんが。

「たぬきの火の用心」は地元に伝わる昔話。いたずら者のたぬきは、おしょうさんに叱られてもたぬき寝入り。ある日、本当に火事が起きて、たぬきは懸命に村人に伝えようとするのですが、日ごろのいたずらがたたって・・・というお話。イラストレーターをしている保護者のひとりが絵を描き、それに住吉小学校オリジナルの音楽と歌をつけました。

この日は舞台の上、スクリーンの脇で、住吉小学校の音楽クラブの5、6年生が演奏。校長先生や教頭先生も出演しました。開演間近の舞台裏、緊張しているのは子どもたちだけかと思ったら、校長先生や教頭先生の顔も強ばっています。「出だしが不安で・・・」と校長先生。楽屋では「子どもたちもよく練習についてきたねえ」という声が聞こえました。きっと厳しい稽古をしたのでしょう。

お話が始まると子どもたちの目は舞台に釘付け。食い入るように見えています。子どもは「絵」をよみながらお話を聴いて、物語の世界に浸ることができるのだといいます。子どもたちの姿を見てそれが納得できました。幕間には先生の腹話術も登場。小さな子は目を丸くして見入っています。

「おと絵がたり」は評判を呼んで、最近はおちこちから声がかかるようになっていきます。物語の世界に入り込んでいる子どもたちの姿を見れば、それもうなずけます。

■問い合わせ ☎ 044-711-3145 加藤妙子さんまで

### 街を元気にする仕掛け人

#### 「のぼりとゆうえん隊」

2003年5月からJR登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺で商業ビジョンの市民委員有志と市民メンバーが「のぼりとゆうえん隊」を始めました。自分たちの街は自分たちで作ろうと、地元で生活する人々の視点から街の応援団として「街を楽しくするための仕掛け」を企画しています。メンバーの年齢も小学生から仕事をリタイアした60代の方まで様々です。

活動内容は、登戸東通り商店街の「ナイトバザール」支援、「フリーマーケット」、ホームページで「地元商店街のお店紹介」などです。去年は、彼らの主催でアート（芸術）によるまちおこし「ノボリト・アート・ストリート」第2回が開催されました。7月14日から29日の期間、場所は登戸駅前から向ヶ丘遊園駅を通過して生田緑地までの区間の商店街・歩道・緑地です。「登戸のまちがしゃべりだす」をテーマに商店街にある各店の特徴を生かした絵やオブジェを飾り、子ども向けの愉快的イベントも行いました。

参加アーティスト山本耕一郎さんの作品、お店をうわさする「ふきだし」には各店の店長さんの人柄やお店のうわさが満載。商店街の常連の人もついつい真剣に読みながらわいわいがやがや賑やかでした。ミヤザキケンスケさんの「動物たちのシルエット」は商店の壁や窓に絵を飾ります。左右見る方向により同じ場所に別の絵が現れます（写真）。皆不思議そうに同じお店の前を行ったり来たり何度も歩いて確かめて

いました。山下昇平さんの「こびと」（人形）は、店の中や緑地に隠されていました。子どもたちもいつもの街を「宝探しみたい」と走り回り、見つけると「やったー」と喜んでいました。

3人のアーティストと一緒に街の演出を仕掛けた「のぼりとゆうえん隊」の江藤代表は、「楽しくて人の集まる場所をつくりたい。登戸の街について考えてもらおうと、登戸小学校児童800人が“登戸のまちのひみつ”を団扇に描き商店街に展示しました。これは、団扇を見て気に入った人には団扇を差し上げ、団扇に秘密を描いた子どもにはそれをもらった人の写真とコメントを見せるという知らない人同士を会わせる演出なのです」と楽しそうでした。自分のアイディアで街が元気になる素敵な活動にあなたも参加してみませんか？

■問い合わせ のぼりとゆうえん隊 mail@noborito-map.com



## 読む科学講座VI

「講座の雰囲気と熱気が、手に取るように伝わってくる」と高い評価をいただいております「読む科学講座」シリーズは、連載開始からちょうど1年を迎えました。

今回はその最終回。そこで、お二人の動物写真家の講演を一举掲載します。天野明(あまの・あきら)先生と、岩合光昭(いわごう・みつあき)先生の楽しいお話を、ほんのちょっぴりお裾分け致しましょう。



### 瞬間を見事に捉えた傑作写真に感動

動物写真家・天野明先生から、多くの傑作写真をベースに、次のテーマで受講しました。

前半：写真から羽音が聞こえてきた（鳥類）

後半：ファインダーを覗くと氷河時代が見えてきた（哺乳類）

まず前半。数々の写真の中で、離着陸（水）時のものが、羽全体を大きく広げ、その動きまで見えるように印象に残りました。実にきっちりタイミングを捉えていることに感心しました。特に、カワセミがホバリング（空中で停止した状態）して魚を見つけ、水中ダイビングして舞い戻る分解写真が見事。

ここで貴重なのは「科学講座」全般のコーディネーターである東昭先生から、カツオドリ、チュウサギ、コサギ、タンチョウ、ケイマフリ、ウトウの写真について、各々異なる姿で苦勞しつつ、羽をどう動かして浮力・重力をコントロールし、離着陸（水）しているのか、その仕組みを補足説明していただけたこと。さもなければ、興味のない人から「傑作写真を見て、感心して、それがどうしたの?」と言われるかねません。

そもそも科学講座のねらいは、暮らしの中で発生している諸現象とその仕組みを知って、暮らしにフィードバックしていくことではないでしょうか。

後半は、大雪山で撮った氷河時代から生き続けるナキウナギと、恐怖のヒグマの写真。

天野先生は、撮影時の環境と対象の動きへの感動を素直に話してくださり、また撮影と現像の技術も丁寧に説明され、臨場感がありました。受講生の中

# シニアのアップデート

にはセミプロ写真家も多く、大いに参考になったのではないのでしょうか。

今講座を振り返って、他の生き物は環境に対応して現在の「姿と動き」に進化してきたのであつて、人類だけが逆に環境（地球）を変えようとして、今日発生している諸問題を招いてしまったことを再認識しました。人類を頂点とした生態系ができあがっている中で、これ以上バランスを崩してしまわないよう心していかなければと思いました。

(かわさき市民アカデミー会員・大塚堅一郎)

### 動物写真家・岩合光昭先生の「生き物の動き」を聴講しました。

先生は1950年に生まれ、19歳の時に訪れたガラパゴス島で自然の驚異に圧倒され、また、タンザニアやオーストラリア等では長期に滞在して定点観測を行い、様々な写真を撮り続けてこられました。その間「海からの手紙」で木村伊兵衛賞を受賞され、「ナショナルジオグラフィック」の表紙を2回も飾られました。

今回の講座の前半は、独特のカラーと躍動感溢れる写真をスライドにして、ガラパゴスからアフリカなどの数多い野生動物を中心に紹介されました。特に食物連鎖の厳しさとその頂点にいるライオンも油断すればたちどころに反撃にあい、殺されてしまうという現実には目を見張りました。

後半は一転して、世界各地で撮った身近な犬や猫の作品を、撮り方のコツを交えながら説明されました。そのコツとは、

- 1) 動物を撮るときはローアングルで
- 2) カメラに囚われず何を撮りたいかを優先
- 3) 動物の表情を撮るには、習性をよく調べて

等のお話でした。

3時間半の講義の中で最も強く印象に残ったことは、先生の自然への弛まぬ愛情であり、自然破壊への対決を持ち続けていることでした。

現在の世界人口66億人、2050年には91億人になると予想される中で、将来も野生動物と共存できるように行動を起こす必要を痛感致しました。

(かわさき市民アカデミー会員・佐藤裕昭)

### お知らせ

川崎市役所では各部局の子ども施策を一元化するために、4月から「市民子ども局」が誕生します。これに伴い、当生涯学習財団が指定管理者となっている「青少年の家」「子ども夢パーク」は、教育委員会から委任を受けた「市民子ども局」が担当します。

## 川崎市生涯学習財団のロゴマークが決まりました。可愛がってください



昨年の『川崎市生涯学習財団のロゴマーク』の募集では、全国 8 都府県から 44人、4 グループの方々から、59作品もの多くの作品をお寄せいただきました。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、審査の結果をお知らせいたします。

- 応募者・作品数 44人、4グループ 59作品
- 応募者の居住地 青森県・長野県・東京都・大阪府・兵庫県  
川崎市・神戸市・北九州市
- 応募者の年齢層 中学生(6名)・高校生(25名)・20～30歳代(1名)  
40～50歳代(6名)・60歳以上(6名)
- ★★★★最優秀作品 東京都 彦根 正 様(グラフィックデザイナー)
- ★★★優秀作品 川崎市 岸本 楓 様(川崎総合科学高校3年)
- ★★優良作品 北九州市 東 信慶 様(会社員)
- ★入賞作品 兵庫県 小柴 雅樹 様(デザイナー)  
青森県 工藤 和久 様(自営業)

### ★★★★ 最優秀作品 コンセプト ★★★★★

Kawasakiの「K」をモチーフに、生涯学習をイメージする「本」を組み合わせ、いきいきと学習する市民と、それを支える川崎市生涯学習財団の姿を表現しています。また、「本」は一人ひとりの「成長と向上心」を、「K」は発展する川崎市の躍動感と広がりを象徴しています。

### 学習情報室の 移転について

Stage Upの発行、学習情報の収集・発信等の業務を行っている学習情報室が、5月1日、現在の教育文化会館から生涯学習プラザ(中原区今井南町514-1)に移転します。また、教育会館にある教育人材センターの業務も生涯学習プラザに移ります。電話番号等は次のとおり変更になります。TEL 733-5811 FAX 739-0085

おいしさを笑顔に

# KIRIN

## 鮮度茶葉

あたらしいをくれるお茶。

キリン生茶

緑本茶格

生茶葉抽出物使用[加熱処理]  
<http://www.beverage.co.jp>  
 キリンビバレッジ株式会社 のんだあとはリサイクル。

※鮮度茶葉とは、鮮度管理を徹底した茶葉のことです。